

令和8年度 リージョナルシアター事業 アーティストプロフィール

アーティストは派遣先の地域でワークショップを行う講師を務める他、実施団体の企画する事業の内容について、実施団体担当者と共に検討を行うコーディネーターの役割も兼ねます。

<アーティスト>



有門 正太郎

演出家・俳優、
有門正太郎
プレゼンツ主宰

1975年生まれ北九州市出身。倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年「有門正太郎プレゼンツ」を始動。「笑顔になれば何でも出来る」を合い言葉に作、演出も務め全国でワークショップやアウトリーチ活動も行っている。俳優では様々な全国ツアー公演等に参加。高校演劇専科での講師経験を活かし、北九州芸術劇場「日韓合同キャンプ〜チャレンジ! えんげき〜」の総合演出等も務める。役者として主な出演作品に、富良野塾公演『今日、悲別で』『走る』（作・演出：倉本聰）、北九州芸術劇場プロデュース『錦鯉』（作・演出：土田英生）、『江戸の青空』（作：千葉雅子、演出：G2）、時空の旅『シラノ・ド・ベルジュラック』（演出：永山智行）など。



越智 良江

劇作家・演出家、
演劇ユニット
KOKOO 主宰

広島生まれ・東京在住。劇作家・演出家。演劇ユニットKOKOO 主宰。広島で「劇団 Tempa」を創立し、作品の創造、創客に奔走。その他、伝統芸能・神楽をモチーフにした『贋作・三年目』、演劇引力広島プロデュース公演『マリーゴールドの女たち』劇作、RCC ラジオ番組『ラジブリズム 剣と弓』作・演出など。2016年から（公財）広島市文化財団佐伯区民文化センター主催人材育成事業「さえきキッズ」指導・脚色・演出。演劇ユニットKOKOO「ドップラー」（東京）、「瀬戸内国際芸術祭 2019」「直島こども劇団」（直島）、新潟「越後妻有大地の芸術祭」（津南町）、宮古市民文化会館 アーティスト・イン・レジデンス「三陸AIR/AIR」2024 アーティスト（岩手県）、「UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川」（静岡県）など、各地で活動している。



志賀 亮史

演出家、
百景社代表

1979年埼玉県生まれ。演出家。百景社代表。2000年、大学在学時に劇団「百景社」を旗揚げ、以後ほぼ全ての作品で演出を担当する。劇団名の「百景社」は、シェイクスピアなどの古典作品や文学作品をいろいろな角度から読み直し、今にも通じる新たな景色を描きたいという思いから名付ける。旗揚げ当初は、拠点である茨城県を中心に野外公演や田んぼのなか、石組倉庫、庭園など、いわゆる劇場外での上演を多く行なっていたが、2009年に利賀演劇人コンクールで優秀演劇人賞（演出）を受賞後、日本各地や時に海外での上演なども行なうようになる。2013年に茨城県土浦市にアトリエを構えてからは、自身の作品創作以外にも、さまざまな舞台作品を招聘するなどの活動も行なっている。



樋口 ミユ

劇作家・演出家、
Plant M 主宰

1995年の劇団 Uglyduckling 旗揚げ以降、2011年の解散まで劇団公演 32 作品の戯曲を執筆する。同年、座・高円寺の「劇場創造アカデミー」演出コースに編入し、佐藤信氏に師事。2012年に Plant M を立ち上げ、大阪・東京をはじめ仙台・横浜・豊橋・雲南・沖縄など各地で公演。2011年から2021年の10年間、3月春分の日に関東大震災のチャリティリーディングを行った。1999年『深流波〜シンリュウハ〜』、2000年『ひとよ一夜に18片』でOMS戯曲賞大賞を2年連続受賞、2012年ラジオドラマ『飛ばせハイウェイ、飛ばせ人生』で放送文化基金賞（ラジオドラマ部門）。2019年より OMS 戯曲賞の最終選考審査員を務める。



福田 修志

劇作家・演出家、
F'sCompany 代表

1975年長崎市生まれ。劇作家・演出家。長崎大学教育学部卒。1997年に F's Company（フーズ・カンパニー）を旗揚げし、代表と作・演出を務める。心の機微を丁寧に描く作風が特徴で、長崎弁で描かれる作品には独特の温かさが感じられる。劇団外の活動としては、長崎市での市民参加型舞台の経験を活かし、子供から大人までが一緒になって創作を楽しめる空間作りを大切に、地域にある歴史や風習を背景とした作品創作を各地で行っている。また近年では演劇を活用した様々な企画やワークショップを行い、社会の接着剤のような活動も多くなっている。その他、「演劇を長崎の娯楽の一つに」という目標を実現すべく、2018年には長崎市内にアトリエ PentA という小さな劇場を構え、ディレクターとしても活動を続けている。代表作『マチクイの詩』『けしてきえないひ』『ノイジー』。日本劇作家協会九州支部 支部長（2024〜）。

<アドバイザー兼アーティスト>



多田 淳之介

演出家、
東京デスロック主宰

©平岩亨

1976年生まれ。神奈川県・千葉県出身。演出家。東京デスロック主宰。
現代を生きる人々の当事者性をテーマに古典から現代劇、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。地域、教育機関での子どもや演劇を専門としない人との創作、ワークショップ、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を軸にボーダーレスに活動する。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3期9年間務める。2014年『ガモメ カルメギ』が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。
四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。おもな演出作品に東京デスロック『再生』、KAAT 神奈川芸術劇場+東京デスロック+第12言語演劇スタジオ日韓合作『外地の三人姉妹』、SPAC 静岡県舞台芸術センター『伊豆の踊子』、精神障害を考える演劇ワークショッププロジェクト『IKIZAMA ミュージックパーティー』など。



田上 豊

劇作家・演出家、
田上パル主宰

1983年生まれ熊本県出身。劇作家・演出家。田上パル主宰。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。専門は現代劇。移りゆく時代の中で揺らぐ人間やその集団を描き出すのを得意とする。劇団外でも、公共劇場プロデュース公演やダンスカンパニーとの合作、国際共同事業など様々な活動を展開。近年は全国各地の小学生から高校生までを対象にした作品創作を精力的に行い、地域性を生かした演出法に定評がある。創作型、体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。2019年より富士見市民文化会館キラリふじみの芸術監督を1期3年務める。奈良市アートプロジェクト舞台芸術プログラムディレクター。芸術文化観光専門職大学助教。江原河畔劇場芸術監督。